

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671500639		
法人名	医療法人 清樹会		
事業所名	グループホーム碧		
所在地	徳島県板野郡藍住町徳命字新居須64-2		
自己評価作成日	平成25年1月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成25年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全職員で利用者の生活歴を共有している。利用者職員は、楽しみを共有しつつ、毎日を落ち着いて生活している。利用者が孤独を感じることがないように、職員は声かけなどに配慮したり、一人ひとりの状況に応じた支援を行ったりしている。また、医療との連携体制を構築し、24時間の対応が可能となっているため、利用者や家族の安心に繋がっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、建物の2階に位置している。各ユニットの職員が、相互に見守りや声かけを行っており、利用者や家族の安心に繋がっている。事業所は、理念に“笑顔”掲げており、職員は、利用者一人ひとりに穏やかな笑顔で接している。職員は、利用者の重度化や終末期を支援するため、知識や技能の習得に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			鉄門 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	説明している。ミーティング等で理念や方針目標を具体的に伝え話し合っている。	理念を事業所内に掲示している。毎朝、職員間で理念を確認し、より共有化を図ったうえで実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の10月にある祭りでは、子供神輿の訪問。子供会の親子さんと一緒にクリスマス会をするなど交流に努めている。	地域の秋祭りの際、子ども神輿の来訪がある。クリスマス会では、子ども会の親子とともにうたを歌ったり、ビンゴを楽しんだりして、積極的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	幼稚園との相互関係(慰問等)により保護者の方々や、その周囲の人々に認知症について理解を深めていただき支援を依頼している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進委員会を開催している。毎回議題を決めて、あらたに意見をもったりしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者の状況や事業所の取り組みについて報告し、参加者から意見を出してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当窓口(健康福祉課)の方と入居状況報告等し、折にふれて交流し協力していただいている。	認定更新の機会に、町担当窓口へ出向いて事業所の実情や取り組みについて報告し話しあっている。日ごろから、町担当者と協力関係の構築に向けて取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は時間を決めて開錠していたが、家族から危険であるとの意見があり、同意が得られず施錠させていただいている。	管理者や職員は、身体拘束の弊害に関する研修会を開催するなどして理解促進に努めている。現在、事業所の立地条件や家族の意見等から、安全面を重視して玄関を施錠している。	たとえ家族の同意のもとで施錠を行っていたとしても、利用者が抑圧感を感じることなく暮らし続けていくための代替策等について職員間で協議を重ねるとともに、拘束の弊害について家族と話しあうなどされたい。職員の意識において、施錠が常識となることのないようつねに話しあい、利用者の安全性と自由性がさらに確立されるよう期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで話し合い、全職員が理解できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			鉄門 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、必要な入居者はいないが、成年後見制度や地域福祉権利擁護について職員が理解でき、必要な方には活用できるよう勉強会をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項等に入居時説明の上、同意を得ている。生活面の希望・要望を聞いている。事業所としてどのように対応しているのかを説明し、同意が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族に随時、意見や要望を求め運営に反映している。また、ユニット毎に意見箱を設置している。家族会や面会時には話をゆっくり聞くようにしている。	利用者や家族に意見や要望を聞き、職員間で検討し運営面に反映している。職員は、家族会や面会時にはゆっくりと話を聞くように心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や要望を聞き、反映している。	2週間に1回、管理者と職員間でミーティングを行っている。管理者は、職員から出された意見や要望を運営面や業務改善等に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績を認め勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じての研修会や法人内の研修会及び施設内の勉強会などもすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームの職員とも常時交流を持ち、相互の活動及びサービスについて勉強会を行い、話し合い取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			鉄門 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に入居者、家族の方と面談し、生活状況や不安に思っていることを聴く機会をつくっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか事前に話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案・相談の中で必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方の思いや不安、喜びなどを知ること努め、和やかな生活ができるような場面作りや声かけを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	暮らしの様子や出来事などの情報を共有するように努め、家族の方と同じ思いで支援させてもらっていることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も友人や知人との交流はできているので、引き続き交流ができるように働きかけている。	利用者の友人や知人の来訪を受け入れている。家族の来訪も多く、ゆっくりと会話を楽しむことができるよう支援している。職員は、利用者一人ひとりの馴染みの関係が途切れることのないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で気の合う者同士やみんな楽しく過ごせる時間を作るように職員が働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			鉄門 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の近況を聞いたり、通所サービスの方はデイサービスの方で声かけしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し図ったり、それとなく確認するようにしている。	日ごろから、職員は、利用者との関わりの中から一人ひとりの暮らし方の希望や思いの把握に努めている。意思の疎通が困難な方には、表情等から意向を汲みとるよう努め、希望に応じた支援へと繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの職業・趣味・家族環境をよく理解し、その人らしい生活で過ごしていただけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに合った過ごし方、またお手伝いもその方の体調を見てお願いしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者や家族の意思をその都度聞き、介護計画に反映している。必要に応じてPTの意見なども取り入れている。作成時及び見直しは家族に開示し、同意を得ている。	利用者一人ひとりのより良い暮らしの実現に向け、本人や家族、職員間で話しあっている。利用者主体の暮らしを反映した介護計画を作成している。1か月ごとにモニタリングを実施し、一人ひとりの状況に応じて計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者ごとに個々のノートを作り、日々の行動、身体状況を記録し、全職員がいつでも確認できるようにしている。また、介護記録をもとに介護計画の見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、家族の方の要望、状況に応じて通院など、必要な支援は対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			鉄門 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、在宅支援センターや他グループホームとの意見交換する会を設け、地域の子供会の慰問や幼稚園のクリスマス会への招待。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	随時、対応が可能である体制を確保している。	多数の利用者が、事業所の協力医療機関の医師を主治医としている。耳鼻科や眼科、婦人科等の受診も支援している。職員が、送迎の支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師、連携医療機関との連絡も密にとれる体制を確保している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は医療と情報を密に、早期退院に向けて交換や相談に努めながら連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の支援は職員が仲介し、家族の方と医師が話し合う場を確保している。家族の方の意見を尊重しつつ、グループホームでできる範囲を説明し、近隣や地域の人達に協力を得てチームで支援することに取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時の段階から事業所のできることを本人や家族へ説明している。関係者の意見を集約し、チームで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応はマニュアルに沿ってミーティング等で勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立ち合いにて、1階デイと合同で避難訓練を実施している。運営推進委員会でも地域の方の協力をお願いしている。災害の発生に備えて、飲料水等を準備している。	利用者の避難通路等の整備を図ったり、3日分の水や食料等を備蓄したりして、実践的な取り組みを行っている。地域の方にも協力を依頼している。年2回、消防署の立ち合いのもと、一階の他サービス事業所と合同で避難訓練を実施しているが、事業所独自の訓練を行うまでには至っていない。	法人全体で、災害時に備えた取り組みを行っており、消防署等からの専門的な意見を取り入れた実践的な訓練を実施している。今後は、いつ、どのような時間帯に発生するか分からない災害に対し、利用者の安全確保と訓練効果の精度を上げるためにも、事業所独自の訓練の実現に向けて取り組まれない。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			鉄門 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格の尊重を重視し、目立たずさりげない言葉かけや対応、また居室の出入りにあたっては、入居者のプライバシーに配慮している。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なうことのないようさりげない言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中のあらゆる場面において、入居者の好みに応じて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れは決まっているが、家事・レクへの参加などはその日の入居者の体調や気持ちによって柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の個性を大切に身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しくなるように、入居者一人ひとりの可能な力を活かして食事の準備・片付けを職員と一緒にやっている。	利用者一人ひとりの力量に応じて、食事の準備や片づけなどの役割を担ってもらっている。また、食欲を高めるために、なるべく体を動かすよう働きかけている。五感を刺激し、食事への関心を高める工夫も行っている。利用者と職員は、同じテーブルを囲んで楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は一人ひとりの嗜好物を理解した上で、量やバランスを考え楽しんで食べていただけよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの習慣やできること、できないことを把握し、個別に必要な働きかけをしている。毎食後の口腔ケア・義歯洗浄または定期的なうがいを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			鉄門 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、一人ひとりにあつた排泄支援をしている。トイレ誘導・介助にて昼間だけでも紙パンツやおしめを外せるような支援をしている。	利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとり応じた支援に努めている。トイレでの排泄や排泄の自立に向け、紙パンツや布パンツ、オムツなどを本人にあわせて検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとり、毎日の排泄状況を記録して状況に応じ、日頃より水分を摂取してもらったり、食事内容を再検討したり、運動への働きかけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	入居者の希望を確認して入浴していただいたり、一人ひとりの気持ちや習慣に合わせて支援をしている。	利用者の希望やタイミングに応じた入浴を支援している。くつろいで入浴してもらえよう一人での入浴を支援している。見守りを強化することで安全面にも留意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間よく眠れるよう、なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。家族の希望に応じ、合間に休息も取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通り服用する支援をしている。また、状況の変化に注意し、医師に報告の上指示を仰いでいる。処方箋のコピーを個人ノートにはさみ、全職員が目を通せるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員主導にならないよう、入居者の能力に合わせて洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、炊事や後片付けなどを分担している。気分転換の為、他グループホームに行き交流を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常に散歩を取り入れたたり、体調に合わせて職員と一緒に買い物・ドライブに出かけるように支援している。また、個別で自宅・お墓参りを家族の協力で外出の機会を支援している。	週1回、散歩や買い物へ出かけている。職員とともに食材を買い出しに行ったり、回転寿司やドライブに出かけたりして、積極的に外出を支援している。自分から外出を申し出る利用者は少ないが、職員から声かけを行うなどして、利用者の気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			鉄門 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できない方は、家族の希望もあり一部の方はホームで預かり、必要な時に手渡し使えるように支援し、自分で管理が可能な方には自分で管理していただき、買い物の際には自分で支払うことができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が手紙や電話を日常的に利用できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間には季節の生け花やテレビ・新聞・週刊誌などを用意し、居心地良く生活できるように努めている。	食堂と居間は広く、車椅子で自由に移動することができる。部屋の一面には、炬燵を置いたスペースがあり、利用者はゆったりと過ごすことができる。木製のベランダからは、近隣の高速道路を走る車や周辺の景色を見渡すことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間の十分なスペースにテーブル椅子・ソファー・こたつで入居者同士で楽しめるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら、入居者に応じて過ごせる居場所が確保されている。	利用者の使い慣れた家具や小物を居室に持ち込んでもらっている。利用者一人ひとりが居心地良く過ごすことができるよう、家具の配置等にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者ごとに検討し、ベッドであれば介護ベッドを使ったり、危険な方にはベッドをなくし床に布団を敷くなどくふうしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			樹門 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	説明している。ミーティング等で理念や方針目標を具体的に伝え話し合っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の10月にある祭りでは、子供神輿の訪問。子供会の親子さんと一緒にクリスマス会をするなど交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	幼稚園との相互関係(慰問等)により保護者の方々や、その周囲の人々に認知症について理解を深めていただき支援を依頼している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進委員会を開催している。毎回議題を決めて、あらたに意見をもらったりしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当窓口(健康福祉課)の方と入居状況報告等し、折にふれて交流し協力していただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は時間を決めて開錠していたが、家族から危険であるとの意見があり、同意が得られず施錠させていただいている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで話し合い、全職員が理解できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	樹門	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、必要な入居者はいないが、成年後見制度や地域福祉権利擁護について職員が理解でき、必要な方には活用できるよう勉強会をしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項等に入居時説明の上、同意を得ている。生活面の希望・要望を聞いている。事業所としてどのように対応しているのかを説明し、同意が得られるよう努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族に随時、意見や要望を求め運営に反映している。また、ユニット毎に意見箱を設置している。家族会や面会時には話をゆっくり聞くようにしている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や要望を聞き、反映している。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績を認め勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じての研修会や法人内の研修会及び施設内の勉強会などもすすめている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームの職員とも常時交流を持ち、相互の活動及びサービスについて勉強会を行い、話し合い取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	樹門	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に入居者、家族の方と面談し、生活状況や不安に思っていることを聴く機会をつくっている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか事前に話し合っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案・相談の中で必要なサービスにつなげるようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方の思いや不安、喜びなどを知ること努め、和やかな生活ができるような場面作りや声かけを行っている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	暮らしの様子や出来事などの情報を共有するように努め、家族の方と同じ思いで支援させてもらっていることを伝えている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も友人や知人との交流はできているので、引き続き交流ができるように働きかけている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で気の合う者同士やみんな楽しく過ごせる時間を作るように職員が働きかけている。			

自己	外部	項目	自己評価	樹門	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている		退所後の近況を聞いたり、通所サービスの方はデイサービスの方で声かけしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している		日々の関わりの中で声をかけ、把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し図ったり、それとなく確認するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている		今までの職業・趣味・家族環境をよく理解し、その人らしい生活で過ごしていただけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている		一人ひとりに合った過ごし方、またお手伝いもその方の体調を見てお願いしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している		入居者や家族の意思をその都度聞き、介護計画に反映している。必要に応じてPTの意見なども取り入れている。作成時及び見直しは家族に開示し、同意を得ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		入居者ごとに個々のノートを作り、日々の行動、身体状況を記録し、全職員がいつでも確認できるようにしている。また、介護記録をもとに介護計画の見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる		入居者、家族の方の要望、状況に応じて通院など、必要な支援は対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			樹門 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、在宅支援センターや他グループホームとの意見交換する会を設け、地域の子供会の慰問や幼稚園のクリスマス会への招待。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	随時、対応が可能である体制を確保している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師、連携医療機関との連絡も密にとれる体制を確保している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は医療と情報を密に、早期退院に向けて交換や相談に努めながら連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の支援は職員が仲介し、家族の方と医師が話し合う場を確保している。家族の方の意見を尊重しつつ、グループホームでできる範囲を説明し、近隣や地域の人達に協力を得てチームで支援することに取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応はマニュアルに沿ってミーティング等で勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立ち合いにて、1階デイと合同で避難訓練を実施している。運営推進委員会でも地域の方の協力をお願いしている。災害の発生に備えて、飲料水等を準備している。		

自己	外部	項目	自己評価	樹門	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている		入居者の人格の尊重を重視し、目立たずさりげない言葉かけや対応、また居室の出入りにあたっては、入居者のプライバシーに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている		生活の中のあらゆる場面において、入居者の好みに応じて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		基本的な流れは決まっているが、家事・レクへの参加などはその日の入居者の体調や気持ちによって柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している		入居者の個性を大切に身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		食事が楽しくなるように、入居者一人ひとりの可能な力を生かして食事の準備・片づけを職員と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		職員は一人ひとりの嗜好物を理解した上で、量やバランスを考え楽しんで食べていただけよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている		一人ひとりの習慣やできること、できないことを把握し、個別に必要な働きかけをしている。毎食後の口腔ケア・義歯洗浄または定期的なうがいを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	樹門	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている		個々の排泄パターンを把握し、一人ひとりにあつた排泄支援をしている。トイレ誘導・介助にて昼間だけでも紙パンツやおしめを外せるような支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる		一人ひとり、毎日の排泄状況を記録して状況に応じ、日頃より水分を摂取してもらったり、食事内容を再検討したり、運動への働きかけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている		入居者の希望を確認して入浴していただいたり、一人ひとりの気持ちや習慣に合わせた支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している		夜間よく眠れるよう、なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。家族の希望に応じ、合間に休息も取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		医師の指示通り服用する支援をしている。また、状況の変化に注意し、医師に報告の上指示を仰いでいる。処方箋のコピーを個人ノートにはさみ、全職員が目を通せるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている		職員主導にならないよう、入居者の能力に合わせて洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、炊事や後片付けなどを分担している。気分転換の為、他グループホームに行き交流を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している		日常に散歩を取り入れたり、体調に合わせて職員と一緒に買い物・ドライブに出かけるように支援している。また、個別で自宅・お墓参りを家族の協力で外出の機会を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	樹門	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		管理できない方は、家族の希望もあり一部の方はホームで預かり、必要な時に手渡し使えるように支援し、自分で管理が可能な方には自分で管理していただき、買い物の際には自分で支払いできるように支援している。				
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		入居者が手紙や電話を日常的に利用できるように支援している。				
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		食堂兼居間には季節の生け花やテレビ・新聞・週刊誌などを用意し、居心地良く生活できるように努めている。				
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		食堂兼居間の十分なスペースにテーブル椅子・ソファ・こたつで入居者同士で楽しめるスペースを確保している。				
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		家族の協力を得ながら、入居者に応じて過ごせる居場所が確保されている。				
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している		入居者ごとに検討し、ベッドであれば介護ベッドを使ったり、危険な方にはベッドではなく床に布団を敷くなど工夫している。				